

證明書

1. 所屬部隊名 (當時昭和十五年十月)

南支派遣

部隊

2. 死亡年月日場所

昭和十七年十二月十三日スマトウ島パルバン飛行場東南
方三〇米突

3. 父親、住所氏名

4.

不詳着現場及経過 (個人調査ニ完)

見失上一元ニ在東口也七同北方山腹ニ奥込ニ板體大破七名
之内
外ニ名ノ死體先見セルニ他西名ハ不明ナリシ

昭和拾遺事 六月三日



22/13

戦死証明書

一、戦死者本籍地

戸主氏名横柄 戸主

氏名

年 月 日生

二、所属

國有部隊名
連隊部隊名

派遣先

第六八部隊

隊

三、戦死者徵集年月

昭和 年

月

日

年

月

日

年

月

日

四、戦死ノ場所及年月日時刻

南洋群島、ハルマヘラ島、一九四二年一月二十一日、夜、...

五、戦死現認ノ程

遺体発見、...

六、遺骨歸還ノ有無

有、...

七、戦死者時ノ状況

...

1-10

大正十一年... 本日... 月... 日

右ノ通り... 氏名

右ノ通り... 証明係也

大正十一年... 月... 日

右ノ通り... 氏名

大正十一年... 月... 日

大正十一年... 月... 日

死、心、有、道、の、証、明、書

証有出 船柏面定通信那彦

昭和六年 在官年 役員 兵長 昭和十六年 船柏面定 通信兵

昭和六年 在官年 役員 兵長

昭和六年 在官年 役員 兵長

昭和六年 在官年 役員 兵長

昭和十六年 四月二十五日

昭和十六年 四月二十五日

昭和十六年 四月二十五日

昭和十六年 四月二十五日

昭和十六年 四月二十五日

昭和十六年 四月二十五日

昭和十六年 四月二十五日

昭和十六年 四月二十五日

昭和十六年 四月二十五日

死亡現認證明書

昭和三年六月一日 調製

死 所屬部隊

四七五 飛行隊 第五隊
通稱 飛鷹隊

死亡場所

マダガスカル

本籍地

死亡年月日

昭和三年五月二十六日

死前階級

陸軍一等兵

死亡區分

戦死

氏名

[Redacted]

受傷箇所

海軍甲 (海没)

遺骨・遺品

なし

病名

なし

事由

現認事由

記載上の注意

一 形記す由は山崎、陸軍、海軍、航空、
一本證明書は三部隊制とする
一 階級は心す死前、死後、
一 死亡區分戦死の時、受命、
一時は病名發病年月日を記す
一 死亡場所、死に、
一 遺骨、遺品、

證明書

元所屬部隊

飛行隊 第五隊

本籍地

[Redacted]

現住所

[Redacted]

階級氏名

[Redacted]

氏名

[Redacted]

現況事由書

昭和七年五月下旬第一飛行隊飛行機五機隊
 以下九七名乗機隊の命をこころしく出発途中アホシの巻を越す
 二日午後五時三十分比島マラウに向う海路ハムシラ島西端飛北進ス
 船舶輸送船一隻護衛船十隻船隻ニテリ等敵機ハ機隊ハムシラ
 ラ島北端をクワイ島海城ニ着キ右側より真西ニ飛テ受ケ一
 隊ニテ火炎ヲ生ジ船体中失部ヲ折レル如ク感シ海軍一隊下シケハ
 アホシ島ニ時回年五月三日ニ其時道ヤ境ナリ機隊現令早リ
 五分間程度ノ時向ト記憶ス此時々々時々々々全量船着ナリ十数ノカ
 監視者ノ命被テリハ状況記憶明瞭ナク現況海面一帯火炎ヲ生ジ救助
 手続ヲ生行者殆ドト火傷ノ多ク自由ヲラス又暗迫リ四時頃自ラス救助船未
 リ八方搜索セリ生存者手名他ハ海軍ニリ尚火炎アリ救助困難ニテ暗周
 全クノ後ニ要テシラハムシラ島ニ戻リ以後救助ニ着キタルニ得テテ救助確認ス

本 籍 地

所 属 部 隊

一 死 亡 年 月 日

一 死 亡 場 所

一 死 亡 區 分

一 傷 病 名

一 遺 骨、遺 物 品 の 状 況

一 死 亡 時 刻 の 状 況

一 死 亡 時 刻 の 状 況

一 死 亡 時 刻 の 状 況

一 死 亡 時 刻 の 状 況

一 死 亡 時 刻 の 状 況

一 死 亡 時 刻 の 状 況

一 死 亡 時 刻 の 状 況

一 死 亡 時 刻 の 状 況

昭和 19 年 7 月 27 日

昭和 19 年 7 月 27 日

昭和 19 年 7 月 27 日

昭和 19 年 7 月 27 日

昭和 19 年 7 月 27 日

昭和 19 年 7 月 27 日

昭和 19 年 7 月 27 日

昭和 19 年 7 月 27 日

昭和 19 年 7 月 27 日

昭和 19 年 7 月 27 日

昭和 19 年 7 月 27 日

昭和 19 年 7 月 27 日

昭和 19 年 7 月 27 日

昭和 19 年 7 月 27 日

氏 名

氏 名

氏 名

氏 名

氏 名

氏 名

氏 名

氏 名

氏 名

氏 名

氏 名

氏 名

氏 名

氏 名

22-12

三採タル捜索手段

昭益丸沈没スルヤ護衛艇又第十七号南丸八直ニ浮流音ノ救助及屍體ノ收容ニ努カス然ルニ當日日中ニテ且海上平穩ニテ捜索容易ニ拘マズ約一時間餘捜索セルモ發見ニ得ザリテ以ツテ止ムナク断念歸還セリ

四戰死確認ノ理由

昭益丸沈没地点莫ハバシク海中ニテ附近ニハ漂着スベキ島嶼ナク且又日中爆撃ニ依リ沈没セルモノナレバ潜水艦ノ浮上モナカリシヲ以テ死體ヲ發見ニ得ザルモ被彈爆發ト同時ニ戰死ニ本船ト運命ヲ共ニセルモノト判断ス

又護衛艇長海軍少佐

一言ニ依リ確實ニ戰死ト認ル

以上ノ事實其ノ綜合ニ照シ十九年十二月二十日十五時四十分東經二三七度二分南緯六度十分ノ海上ニ於テ輸送船昭益丸敵機ノ爆撃ヲ受テ沈没ノ際戰死セルモノナルヲ確認ス

昭和二十一年一月四日

第八航空特務隊長

右理圖書に基き昭和十九年十二月廿二日マニラ海峡に於て戦死したものと
認定す

昭和二十三年一月三日

留守業務司長

戰死 遺書

本籍地
現住所

所屬部隊
第八航空情報隊

豫備役 昭和三十二年徵集

陸軍中尉

[Redacted Name]

以下五名

一 生死不明トナリタル日野場所

昭和十九年十月三十一日十五時十五分

東経一三七度二分 南緯六度十分

二 生死不明トナリタル前後ノ状況

中尉以下五名ノ輸送船ハ昭和三十二年十月十九日東京方面

北東海上ニ航行中ニ遭フル敵機ノ襲撃ニ遭ヒテ船中ノ乗員五名ノ生死不明トナリタルノ事ナリ

東方ヨリ敵機四發（水）機飛進ツキツアルヲ發見直ニ退避
 行動ヲ移ラシメ敵機ハ（主上）等益丸ヨリ指向セシメテ飛来
 吾方一対此射撃手ニ（感シツ）高度約二二〇米ヨリ爆撃手ニ實
 施投彈十二發九時四十分折柄猛烈ナルスコールヲ多敵機ハ東北
 方逃走セリ。船團ハ幸ニテ被害ヲ以前ノ隊型ニ戻リ航行ヲ續
 ケタリ然ルニ十四時五十分又ニテモ東北方ニ双發三機追撃手ニ来ルヲ
 發見前同様直ニ退避行動ヲ移行セルモ十五時五分更ニ四發一機
 水艦攻撃手ニ来リ吾護衛艇及船團ヨリスル熾烈ナル攻撃ヲ待
 低空ニテ銃爆撃ヲ併セ行ニ益丸ニ對シ後方ヨリ進入投彈セリ
 之ガ下幸ニテ船橋（機関部）ニ彈前甲板ニ彈被彈シ爆發
 ト同時ニ本船猛烈ナル火ヲ生シ約十五分間ニテ沈没ス
 時既ニ敵機ハ敗走セリ（中尉ハ輸送指揮官トシテ船橋ニ
 在リテ全般指揮ニ任シタリ）
 尚 准尉以下八前甲板ニ在リタル者何レモ被彈爆發ト同時ニ戰
 死シ本船運命ヲ決シテ判断セラル